

第2学年 生活科学習指導案

日 時：令和4年6月29日（水）5校時

対 象：2年3組 27名

1 単元名 「ぐんぐんそだて みんなの野さい」

2 単元について

（1）単元の目標

- 野菜づくりを計画的に行うことで、野菜の育て方や育てるための様々な工夫に気付くとともに、友達と協力して取り組むことの喜びを味わうことができるようにする。
- 継続的な栽培活動を通して、野菜をはじめ植物には命があり、大切なものだということを実感できるようにする。

（2）単元の評価規準

観 点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	◇植物の栽培を通して、それらの育つ場所、変化、そして成長の様子に気付いている。 ◇植物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。	◇植物の世話を通して、それらが育つ場所、変化、そして成長について考えながら世話や観察などを行っている。 ◇植物の栽培について、得た知識を生かして表現し、身近な人にわかりやすく知らせている。	◇身近な植物に親しみをもって関わり、大切にしようとしている。

（3）単元の設定理由

本単元は、内容（7）「動植物の飼育・栽培」を受けて構成されている。ミニトマトや野菜を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、親しみをもって世話をしたり、観察をしたりするとともに、それらが生命をもっていることに気付き、大切にすることをねらいとしている。

収穫という目標を持って野菜の世話や観察をする活動を通して、野菜を育てる楽しさを味わうとともに、成長を願い、収穫の喜びを実感できるようにする。また、日々変化していく野菜の成長やその成長に合わせた世話があることに気付き、周りの人々と関わりながら、継続して楽しく栽培活動が進められるようにする。単元の終わりには、野菜の栽培を通して気付いた事柄を身近な人に伝え、植物への関心を更に高められるようにする。

3 児童の実態

1年生の時に、植木鉢で一人一鉢アサガオを育てているので、日光を当てたり水を与えたりするなど

の、基本的な育て方は知っている。植物を育てることに 대해서는 意欲的で、すすんで図書室から野菜の本を借りてきて紹介するなどしている。1年生の時も地域の栽培に詳しい人を「名人」と呼んで慕っており、一緒に活動している。

ICT はタブレットを使ってドリル学習に取り組んだり、写真を撮ったりして活用している。また、2年生になってからは、オクリンクを使って写真を保存する方法や、ムーブノートに手書きで文字を入力する方法などに取り組み始めた。

4 授業づくりの工夫（ICTの活用）

（1）成長過程を時系列に並べて記録（オクリンク）

野菜の成長の様子をタブレットで撮影し、オクリンクで時系列に並べて記録する。写真とともに、野菜の世話や観察を通して気付いたことや考えたことを書き込み、継続して記録していく。これにより、成長の過程や変化を簡単に比較、分類、保存し、自分の気づきを時間の変化を追って見ることができる。記録を見返しながら自分の活動を振り返り、次にどんな世話をするとよいかを調べたり聞いたりできるようにし、気づきを深められるようにする。

（2）撮影した写真を見せながら発表（タブレットのカメラ機能）

栽培活動を行う中で数回、丁寧に観察をする機会を設ける。その際、大きさや形、色、長さ、におい、触り心地など、気付いたことや疑問に思ったことを文字と絵で観察カードに記録する。観察結果を友達と共有するときに、タブレットで撮影しておいた写真も活用する。ピンチアウト操作で拡大すると、茎の細かい毛の様子や、葉脈の様子などを見せることができる。また、対象物を見せながら発表することで、児童の「発表したい」「知りたい」という意欲も高めることができる。

撮影の際に、児童には次のことを指導しておく。①ズームに耐えられるようにピントを合わせて撮影する。②撮り終わったら、思い通りの写真が撮れているかを確認め、必要に応じて撮り直しをする。

（3）野菜名人との交流（動画）

ミニトマトの種まき、サツマイモの苗植えの際に、野菜名人からやり方を教わった。野菜を育てたり観察したりしていく中で、様々な気づきや疑問が出てくることが考えられる。野菜の育て方や栽培活動中に起こった様々な困ったことについて、まずは自分たちで調べ、野菜名人にも質問できるようにする。芽欠きなどの世話については名人の作業の様子を動画に撮っておき、児童が大事なところを繰り返し見て確認したり、タブレットを手元に置いて確認しながら作業したりできるようにする。

本時では、児童に気付かせたい視点を動画に撮っておいたものを見せ、自分たちで気付かなかったミニトマトの成長や新たな観察の視点に気付かせたい。

（4）考えたことの共有（ムーブノート）

学習を通して考えたことをムーブノートで表現させ、集約する。友達の考えを読んで、自分の考えを広げたり深めたりするとともに、注目させたい考えや深めたい考えを取り上げて、学級全体で話し合う。

5 単元指導計画（17時間）

過程	時	○主な学習活動 ・留意点	◇評価規準【評価の観点】
① ふ れ る ・ つ か む	1. 2.	「なにをそだてようかな」 ○1年生のときの育てた経験を想起したり、教科書を見たりしながら自分で栽培する野菜に関心をもつ。 ○ミニトマトの種を想像し、実際にミニトマトの種を見て、観察カードに記録する。 ・タブレットで写真を撮り、記録として残せるようにしておく。	◇身近な野菜に関心をもち、育てようとする思いを高めている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ◇すすんでミニトマトを観察しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
② 広 げ る ・ 考 え る	3. 4. 5. 6. ・ 7. 8. (本時)	「そだてるじゅんぴをしよう」 ○野菜を育てるために必要なことを確認し、種まきをする。 ・地域の栽培に詳しい人を野菜名人として招き、活動を支援してもらえるようにする。 ○野菜の世話や観察で気をつけることを考える。 ・困ったことは名人に尋ねればいいことに気付かせる。 「せわとかんさつをしよう」 ○観察や世話で大切なことは何か考える。 ・観察カードの記述の仕方などについては国語科の学習内容と関連させ、観察すべきことを追加していく。 ○栽培する野菜の変化に気付き、すすんで観察をしたり、野菜のお世話をしたりする。 ・種からどのように成長しているか、変化したことなど、気付いたことをオクリンクで随時写真にコメントを付け記録していき、全体に広げられるようにする。 ・写真を撮る際、細かい部分が伝わるように、ピントを合わせる指導をする。 ○野菜を観察して、気付いたことや疑問に思ったことを紹介し合う。 ・野菜名人から児童に気付かせたい視点を動画に撮っておき、自分たちで気付かなかった成長や新たな観察の視点に気付かせる。	◇野菜にはそれぞれに合った植え方があることや、気を付けることがあることを理解している。 【知識・技能】 ◇野菜の変化や成長、草ひきなどの必要な世話に気付いている。 【知識・技能】 ◇長さ、大きさ、色、においなどに注目しながら観察したり記録を残したりしている。 【思考・判断・表現】 ◇成長具合を比較して、気付くことができる。 【知識・技能】

	9. 「野さいのせわをつづけよう」 ○野菜の栽培を通じて見つけた気付きや疑問を話し合う。 ・世話を続けながら観察して気付いたこと、疑問や困ったことを、オクリンクでカードに書いて全体で共有できるようにする。 10. ○問題の解決に向けた情報を収集し、作戦を立てる。 ・問題を解決するために、図書資料やタブレットを使って調べたり、名人に聞いたりして、解決できること想起し、自主的に考えられるようにする。 11. ○問題を解決するために考えた作戦を実行する。 12. 「野さいをしゅうかくしよう」 ○野菜のでき方に関心をもったり、収穫した野菜の活かし方を考えたりする。 ・これまでに子どもが書いた観察カードや写真を見ながら振り返ることができるようにする。 13. ○育てた野菜を収穫する。 ・収穫する際は、食べ頃なのかを確認するよう指導する。 14. ○収穫して気付いたことや感じたことを話したり書いたりして共有する。	◇野菜は、変わったり、成長したりすることに気付いている。 【知識・技能】 ◇疑問に思ったことを、図鑑で調べたり、専門家に聞いたりしながら解決しようとしている。 【思考・判断・表現】 ◇野菜の様子を気かけ、日常的に世話を続けようとしている。 【主体的に取り組む態度】 ◇野菜は、どのようにできるのか、自分なりに気付いている。 【知識・技能】 ◇野菜を収穫して気付いたことや感じたことなどを自分の言葉で相手に伝えることができる。 【思考・判断・表現】
③ ま と め る ・ い か す	15. 「野さいづくりをふりかえろう」 ○野菜づくりで振り返った事柄を表現方法を選択しながら整理し、身近な人に伝える。 ・振り返りやすいように活動の流れや野菜の成長が分かる写真を活用する。 16. 17. 「秋冬野さいにちょうせんしよう」 ○秋、冬野菜に関心を持ち、夏野菜での学びを生かしつつ、栽培に挑戦する。	◇自分が選択した表現方法について、自分の伝えたいことが他者に伝わる工夫をしている。 【思考・判断・表現】 ◇秋・冬野菜に関心を持ち、また育てたいという思いや願いをもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】

6 本時の学習（8／17時間）

（1）ねらい

- 観察をする中でミニトマトの成長に気付き、愛着をもって育てられるようにする。
- 成長の違いに気付き、よりよい育て方を知りたいという意欲をもたせる。

（2）展開 場所：教室

過程	学習活動	○指導上の留意点 ◇評価基準【評価の観点】	ICT の活用と教師の意図
ふれる・つかむ	1 本時のめあてを確認する。 ミニトマトをかんさつして、気づいたことや、ぎもんに思ったことをしょうかいしよう。	○本時までの確認をし、今までの学習を振り返られるようにする。	【一斉】大型モニター ・モニターに今までの学習の写真を提示する。
	2 学習の流れを確認する。	○学習の流れを掲示して、確認できるようにする。	
広げる・考える	3 気付いたことや疑問に思ったことを友達に伝えたり発表したりする。 ・オクリンクで写真を見せながら、成長を伝えるようにする。 ・観察カードを台本にする。 ・ペア、全体の順に伝える。	○タブレット端末で撮ったミニトマトの写真をオクリンクに貼り付け、比較できるようにしておく。 ○気付いたことを書き込んでおいた観察カードを台本に、発表する。 ○成長したことだけでなく、あまり変わらなかったことも発表してよいことを伝える。 ○友達と伝え合うことで、自分のミニトマトの育ち具合を比較できるようにする。 ◇成長具合を比較して、気付くことができる。 【オクリンク・観察カード・発表】	【協働】オクリンク ・前時までに撮り溜めた写真を時系列で並べ、簡単に比較できるようにする。
	4 野菜名人からの動画を見る。 ・気付いたことを発表する。	○野菜名人の育てたミニトマトを見せたり、何人かの植木鉢を並べて成長の違いを感じさせたりする。 ○野菜名人には予め成長具合を見ていただき、気付いてほしい点や、注意してほしい	

【一斉】動画
大型モニター
タブレット
・動画を活用し、次の活動への意欲を高めさせる。

		点を紹介してもらった動画を撮影しておく。 ○動画を見せ、次に意欲が向くようにする。 ○タブレットにも動画を流し、近くで見られるようにする。	・手元のタブレットにも流し、拡大して見られるようにする。
まとめる・いかす	5 本時の学習を振り返る。 ・ムーブノートを使って学習を振り返る。 ・振り返りを発表する。 6 次時の活動を確認する。	○友達と比較したり野菜名人の動画を見たりして、気付いたことや考えたことをムーブノートに入力させる。	【個別】【協働】 ムーブノート ・学習の振り返りをムーブノートに入力させることによって、友達の意見を瞬時に、また同時に確認させる。

(3) 板書計画

6月29日(水)

㊟ ミニトマトをかんさつして、気づいたことや、ぎもんに思ったことをしょうかいしよう。

○気づいたこと

がくしゅうのながれ
 1
2
3
4
5
6

比較写真

 今

比較写真

 実の
なる頃

○ぎもんに思ったこと

○○が同じですね。

わたしも同じでした。

○○は気づきませんでした。

わたしはちがいました。

○○がちがいました。

○ふりかえり